讃岐国の安益郡に幸す時に、軍王、山を見て作る歌

五番

霞立つ　長き春日の　暮れにける　わづきも知らず　むらきもの　心を痛み　ぬえこ鳥　うらなけ居れば　玉だすき　かけのよろしく　遠つ神　我が大君の　行幸の　山越す風の　ひとり居る　我が衣手に　朝夕に　かへらひぬれば　ますらを　と　思へる我も　草枕　旅にしあれば　思ひ遣る　たづきを知らに　網の浦の　海人娘子らが　焼く塩の　思ひそ焼くる　我が下心

反歌

六番

山越しの　風を時じみ　寝る夜おちず　家なる妹を　かけて偲ひつ